



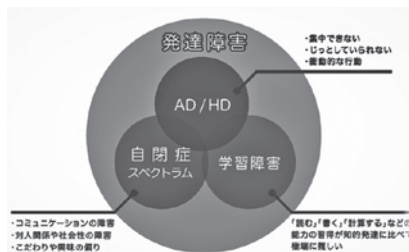
鶴見 久美子 議員

発達障がい児への理解について

**問** 発達障がいは、脳機能の発達に関係する生まれつきの特性で、病気とは異なり多くは幼児期からさまざまな症状があらわれる。早期発見・療育が大切であるが、本市の発達障がい児の支援について伺う。

早期の適切な対応、就学に向けての準備へつなげていくため、保護者が気づく事が大切であり、5歳児健診が必要だと考えるが所見を伺う。また、保護者への

フォローや心のケアも必要であり、同じ障がいを持ち、子育てを経験し、一定の研修を受けた保護者のペアレントメンター養成研修実施について所見を伺う。



発達障がいとは

**答 (健康福祉部長)** 発達障がい児の支援については、児童発達支援サービス、放課後デイサービス、保育所等訪問支援のサービスを実施している。

5歳児健診について、実施に当たっては、小児科医、心理士

等のスタッフの協力が必要である。今後は、幼稚園、保育園と連携を密にし、5歳児相談の充実を図り、健診の在り方についても検討していきたい。ペアレントメンター養成研修については、先進地事例等情報収集しながら検討していきたい。

高齢者の免許自主返納について

**問** 自主返納した高齢者への優遇制度導入に対し所見を伺う。

**答 (生活安全部長)** 交通事故防止対策の一環として、運転免許証を自主返納される人を支援する必要があると思われる。先進地を含め事例調査を行い、研究していきたい。

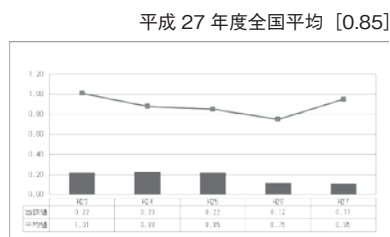


佐藤 稔 議員

水道事業の現状と今後について

**問** 水道施設の多くは高度経済成長時代に整備されたものであり、老朽化が進み更新時期にある。厚労省は水道法改正案の中で、施設の戦略的な老朽化対策を努力義務化し、新たに広域連携の推進、水道台帳の整備、持続可能な水道料金設定、コンセッション方式の導入、アセットマネジメントの進捗管理等を自治体に求めている。安定的に安全な水の供給を確保するための、

市の水道事業の現状と今後について伺う。



古河市の管路更新率 (%)

**答 (上下水道部長)** 市の水道事業について、老朽化対策については、老朽化施設の更新、改築を施設の健全性を確保しながら、計画的に行う。

広域連携については、先進事例や近隣自治体の状況を注視し、調査研究をしていく。

水道施設台帳については、水道法改正時に作成していく。

コンセッション方式はまだ検

討している自治体が少ないため、今後の国の動向を注視する。また、アセットマネジメントの進捗状況については、この手法を取り入れた第2次基本計画の策定を平成29年度中に完了する。

「高齢者福祉電話」の貸与制度について

**問** 福祉の観点から、電話を必要とする対象者や運用方法等を定めた実施要綱の策定が必要と考えるが市の考えを伺う。

**答 (健康福祉部長)** 福祉電話の実施要綱について、現在、古河市ひとり暮らし高齢者日常生活用具給付等事業実施要綱に基づいて、電話回線の貸与を行っている。既存の実施要綱をわかりやすいものに見直しを行いたい。